

いま街で



◆228◆



去年二月に結成された
「越谷らる」・地域の教育

同じような悩みを持つ親に
会い、交流の輪を広げて
いたとか。設立時、数人

改善に努めている。
同市千間台で学習塾を経
營する山野井紀男さん(左)

塾の開放は、その意味で子
供の成長に最適な環境だと
思ふ」と話したうえで、

「学校に行かないことに引
き目を感じずに伸び伸び
と過ごしてくれたら」と期
待を込めた。

くゆつたりと。この気持
も、二人の子供が登校拒否
になった経験を持つ。「学
校に行きたい、と話して
いる」と説明する増田
さん。隔月ごとに、勉強会
や講習会を開き、会報も発
行している。また、学校教育
の実態を報告・検討してい
うと、小学校教諭の調査も行
ななど教育環境の改善に努め
て専門医のカウンセリン
ケを行ったところ、

も、「以前は、将来
や世間体を考え、子供に
できるだけ登校するよう勧
めいた」と振り返った。
増田さんは「家では
身につけることのできない
社会性の育成にも役立つて
いる」と語った。

増田さん。以前は、将来

ゆつたりと子供に接する

登校拒否児に塾を開放

を考える住民の会」は、越谷市など在住の登校拒否児を持つ父母らでつくるボランティア団体。登校拒否や子供の人権など、学校を取り巻くさまざまな問題の改善に取り組んでいく。代表の増田良枝さん(左)に立つのを忘れがち。広谷

だつた仲間も、現在は七十世帯、三百人を超えて、広谷をみせているといふ。 「らる」とは、音楽用語で「広く、ゆつたり」という意味。「子供に接する親は、時として子供の立場に立つのを忘れていた。居場所

う。自分の意思で遊んだり学んだりすることが大切。塾の開放は、その意味で子供の成長に最適な環境だと放も行っている。「学校に

に子供たちは縛られて、学校も一つの価値観で子供を縛る」としている」と増田さんは指摘する。「今後も、多くの生徒が学校に絶望している現実があること

話した。

ハイキングを楽しむ「越谷らる」の登校拒否児ら。昨年10月、栃木県の太平山で

教育を考える「越谷らる」

活動当初はいろいろと困難にぶつかった」と話す

同会に関する問い合わせは、増田さん宅=電0489-255601。

9 (78) 255601